

スライディング SB フィックス用手術器械

(SSB アウターガイドインサータII (L) /SSB アウターガイドインサータII (S) /
SSB アウターガイドハンドルII/SSB バレルT レンチII/SSB インサータII用ソケットレンチ)

【警告】

本手術器械は未滅菌のため、[保守・点検に係る事項]に定める方法で、使用前に必ず滅菌を行い、使用後は必ず洗浄・滅菌を行い、清潔に保管すること。

【禁忌・禁止】

[併用医療機器]

当製造販売業者製の骨折部固定内副子材料以外の骨接合手術に使用しないこと。[「相互作用」の項参照]

【形状・構造及び原理等】

1. 組成

ステンレススチール，チタン合金，PF，PEEK

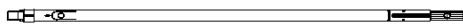
2. 形状・構造・原理

本品は大腿骨の骨接合手術に用いる TLS スクリューシステム（スライディング SB /スライディング SB フランジ型）（医療機器承認番号：22500BZX00388000）専用の手動式手術用器械です。

尚，本手術器械の製品名，カタログ番号については，包装表示ラベル又は製品本体に記載されていますのでご確認ください。

□ Cat. No. HS38-0510

製品名：SSB アウターガイドインサータII (L)



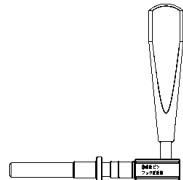
□ Cat. No. HS38-0520

製品名：SSB アウターガイドインサータII (S)



□ Cat. No. HS38-0610

製品名：SSB アウターガイドハンドルII



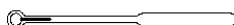
□ Cat. No. HS38-0820

製品名：SSB バレルT レンチII



* □ Cat. No. HS38-0530

製品名：SSB インサータII用ソケットレンチ



【使用目的又は効果】

骨接合手術等の骨手術に用いる手術器械をいう。手動式のものに限る。本品は再使用可能である。

【使用方法等】

1. 使用前

本手術器械は未滅菌のため，手術前に予め [保守・点検に係る事項] に示す条件にて滅菌を施して下さい。

2. 使用時（使用例）

基本的な手術手技はスライディング SB フィックス用手術器械の添付文書 [HJ-6CN] をご参照下さい。

2-1 フランジ型SBの挿入

- 1) ステップリーマーのリーミングにて読み取った長さのインプラントを選択します。インプラントのアウター開窓部とアウターガイドインサータII (S) のイラストマーキングを合わせてからインプラントを組み付け，インサータII (S) の中軸を締め付けて確実に固定します。（図1）

アウター開窓部より，フックが適切な向きで配置されていることを確認して下さい。

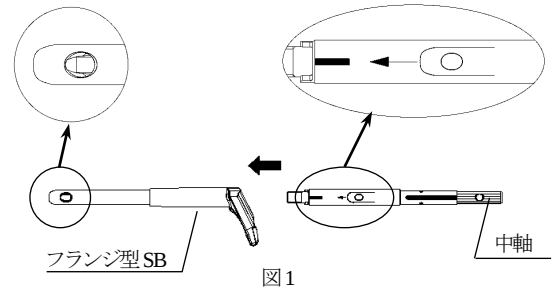


図1

- 2) インプラントのアウター開窓部とアウターガイドハンドルIIのイラストマーキングを合わせてから，インサータII (S) の後端にハンドルIIを接続します。（図2）

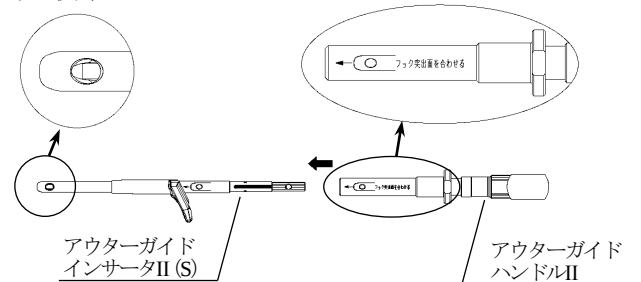


図2

- 3) フックの突出向きを前面に向け，遠位ステップリーマーの軸へフランジ部ロックホールを通し，フランジ部が骨面に密着するまでインプラントを押し込みます。（図3）

挿入する際は，ハンマー等で打撃しないで下さい。

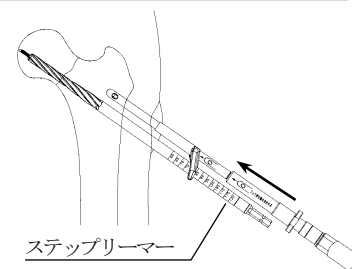


図3

- 4) プッシャーSを挿入し，ハンドルをしっかりと把持しながらプッシャーSを右に回し，フックを突出させます。（図4）

フックの突出状態は，必ずイメージインテンシファイヤー（X線透視）で確認して下さい。

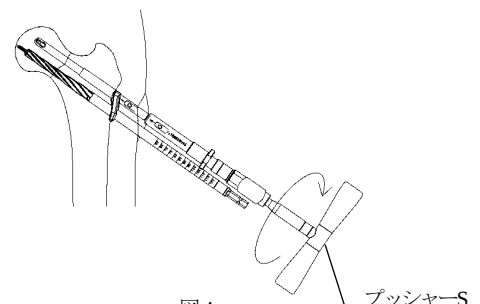


図4

- 5) ハンドルIIを取り外します。(図5)

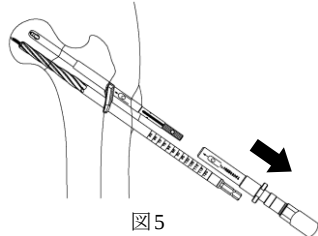


図5

- *6) インサータII (S) にインサータII用ソケットレンチを取り付けます。インサータII (S) のラインマーキングにソケットレンチのラインマーキングを合わせ、奥まで確実に挿入して下さい。(図6)

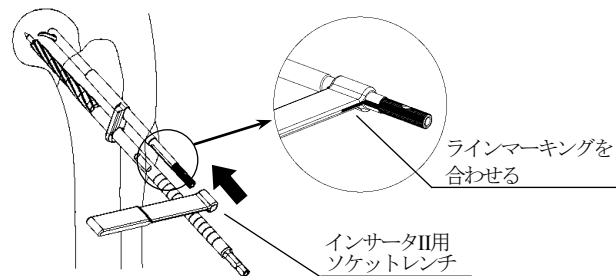


図6

- *7) ソケットレンチをしっかりと把持しながらインサータII (S) の中軸を緩め、引き抜きます。(図7-1)
その後、インサータII (S) の外筒を取り外します。(図7-2)

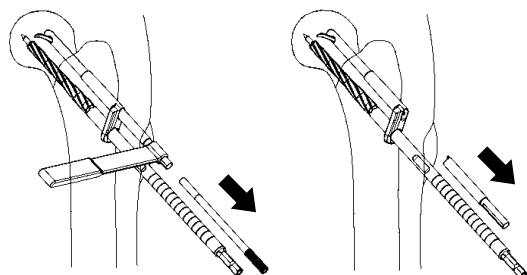


図7-1

図7-2

2.2. スライディングSBの挿入

- 1) 遠位にインプラントを挿入します。
ステップリーマーのリーミングにて読み取った長さのインプラントを選択し、フランジ型SBの挿入手順1)と同様にインプラントとアウトガイドインサータII (L) を組み付け、中軸を締め付けて確実に固定します。(図8)

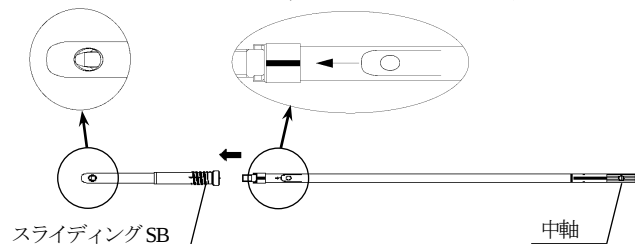


図8

- 2) インサータII (L) にバレルTレンチIIを挿入し、Tレンチ後端をインサータII (L) のラインマーキングに合わせてからハンドルIIを接続します。(図9)

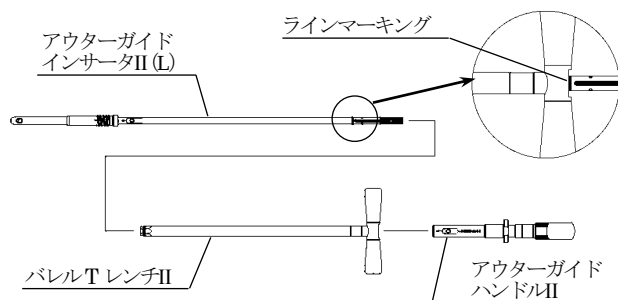


図9

- 3) フック突出向きを近位に向け、インプラントを押しながら挿入していきます。バレルのスレッド部が骨面に達したら、ハンドルをしっかりと把持しながらバレルTレンチIIを右に回しねじ込みます。(図10)
SB アウター部はそのまま前進します。

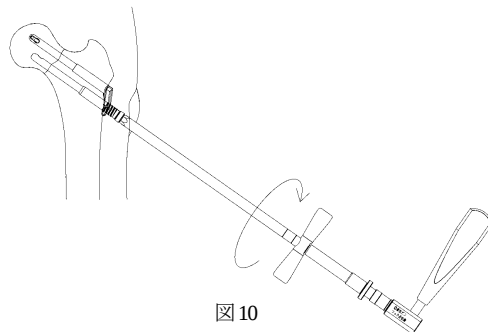


図10

- 4) プッシャーLを挿入し、フランジ型SBの挿入手順4)と同様にフックを突出させます。(図11)

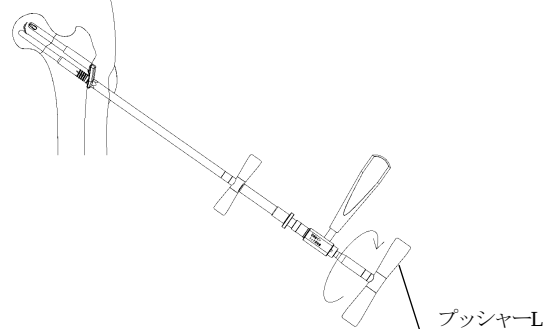


図11

- 5) ハンドルIIを取り外します。(図12-1) その後、バレルTレンチIIを取り外します。(図12-2)

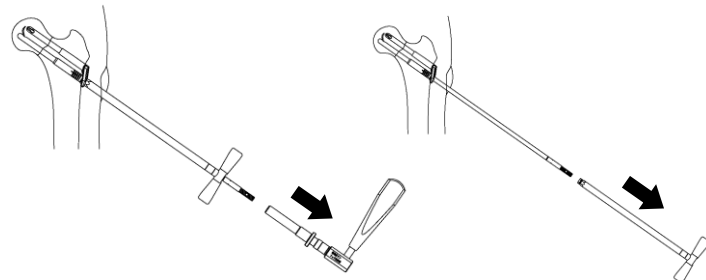


図12-1

図12-2

- 6) インプラントが回転しないよう、インサータII (L) の外筒をしっかりと把持しながら中軸を緩め、引き抜きます。(図13-1)
その後、インサータII (L) の外筒を取り外します。(図13-2)

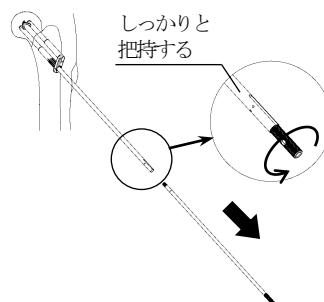


図13-1

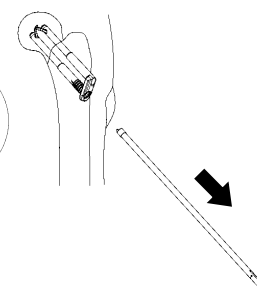


図13-2

3. 使用後

使用後は、水ですすぎを完全に行い、[保守・点検に係る事項] に定める滅菌方法にて滅菌を行います。

4. 使用方法等に関連する使用上の注意

- 1) 使用前に必要な手術器械が揃っているか確認して下さい。
- 2) ステップリーマーのリーミングで深さを計測する際、中間位置を示した場合、ショートニング防止のために長いサイズのインプラントを選択して下さい。
- 3) アウターガイドインサータII、及びアウターガイドハンドルIIをインプラントと接続する際、必ずインプラントのアウター開窓部よりフックが適切な向きで配置されていることを確認して下さい。フックの向きが適切でない場合、フック突出時にフックの突出不良又は破損を生じることがあります。
- 4) ロッキングスクリュースホールは、スライディングSB挿入の前に必ず骨屑等を除去し、軸アライメントを真っすぐに確保して下さい。
[ドリリング後に排出された骨屑等のロッキングスクリュースホールへの介入により、ロッキングスクリュース部が適切に固定できない（浮く、傾く等）恐れがあります。]
- 5) スライディングSBは、ドリリング及び固定穴に対し、軸アライメントを真っすぐに確保しながら挿入して下さい。
[軸アライメントのずれにより、ロッキング機構部の固定不良又は破損が生じる恐れがあります。]
- 6) プッシャーによるフック突出操作は、プッシャー手元のストッパーにより10mm位置で止まります。近位及び遠位のフックが互いに干渉しないよう、X線透視下で確認しながらフックの突出を行って下さい。
[フック同士の干渉により、フックが適切に突出できない恐れがあります。]
[フック同士の干渉により、術中／術後にフックが緩む恐れがあります。]
- 7) フック突出完了後は、必要以上にプッシャーを回し過ぎないで下さい。
[器具の破損又は器具の取り外しが困難になることがあります。]
- 8) フックの突出完了後、プッシャーを取り外す際、インプラントが回旋しないよう、アウターガイドハンドルを確実に把持して下さい。
- 9) インプラントの際、打撃したり、無理に挿入しないで下さい。
[インプラント又は手術器具が変形、破損する恐れがあります。]
- 10) 挿入／抜去の際は、専用の手術器具を正しく接続するとともに、周囲の神経や血管を損傷させないようにイメージインテンシファイヤー（X線透視）で確認しながら、慎重に行ってください。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- 1) 先端の変形や摩耗が激しい工具は破損する恐れがあるので、絶対に使用しないで下さい。
- 2) 使用後は隙間部分、内管及び中空部分や複雑な構造を有する部分に血塊等が残らないよう速やかに洗浄後滅菌して下さい。（「保守・点検に係る事項」参照）
[嵌合部等にある血塊や異物を除去しきれない恐れがあります。]

2. 相互作用（他の医療機器等との併用に関すること）

1) 併用禁忌（併用しないこと）

医療機器の名称等	臨床症状・処置方法	機序・危険因子
当製造販売業者製（※1）以外の骨折部固定内副子材料	インプラントの緩み、破損の危険性が高まる恐れがある。	インプラントが適切に埋入できないため固定力等が不足する。
当製造販売業者製以外の手術用機械器具	手術用機械器具の不具合による危険性が高まる恐れがある。	手術用機械器具の操作が正しく機能しない。

（※1）TLS スクリューシステム（スライディングSB／スライディングSB フランジ型）（医療機器承認番号：22500BZX00388000）

3. 不具合・有害事象

本製品の使用において、患者の状態、骨折部の形態及び骨癒合の状態などにより次のような不具合・有害事象がまれに現れることがあるので、異常が認められた場合は直ちに適切な処置を施して下さい。

- 1) 重大な不具合
 - ・製品の破損、破損片の体内遺残
- 2) 重大な有害事象
 - ・偽関節、変形骨癒合、再骨折（術中／術後）
 - ・二次骨折
 - ・カットアウト、インプラントの脱転
 - ・感染症、血栓症
 - ・骨の短縮、骨壊死、骨密度の低下
 - ・金属アレルギー、異物アレルギー

- ・手術における神経的損傷、血管損傷及び穿孔時発熱障害
- 3) その他の不具合
 - ・挿入時／抜去時の製品／器具の破損
 - ・術後のインプラントの緩み
 - ・過度のスライディング又は骨頭穿破
 - ・スライディング不良
 - 4) その他の有害事象
 - ・痛みや不快感、異物感
 - ・骨癒合不全
 - ・血行再生障害
 - ・挿入／抜去時における破損器具の体内遺残

4. 高齢者への適用

一般的に高齢者は骨量・骨質が十分でないことが多いので、本製品の使用は慎重に行い、術後の経過にも十分注意して下さい。

【保管方法及び有効期間等】

- 1) 保管方法
直射日光及び高温多湿を避け保管して下さい。

【保守・点検に係る事項】

【使用者による保守点検事項】

1. 使用前

- 1) 本手術器械は未滅菌のため、手術前に予め次に示す条件にて滅菌を施して下さい。
・滅菌方法及び滅菌条件（オートクレーブ滅菌）

熱源	水蒸気	
処理圧力	118 kPa	196 kPa
処理温度	121℃	132℃
処理時間	20分以上	5～10分
- 2) 製品を使用する前に摩耗、キズ、割れ、有害なバリ、錆、接合の不良等がないか、外観検査を実施して下さい。

2. 使用後

- 1) 使用後は、速やかに洗浄を行い、血塊等を除去し、使用前の欄に示す「滅菌方法及び滅菌条件」で滅菌を行い保管して下さい。
- 2) 洗浄中又は洗浄後の製品を放置すると錆び等が発生する恐れがありますのでむやみに放置しないで下さい。
- 3) 洗浄剤は、医療用中性洗剤等の専用の洗剤を用い、適正な濃度で使用して下さい。（洗剤の使用説明を参照して下さい。）
- 4) 強アルカリ／強酸性洗剤・消毒剤は器具を腐食させる恐れがあるので、使用を避けて下さい。やむを得ず使用する際は、製品の状態を確認し腐食等が発生しないよう洗浄して下さい。
- 5) 洗浄の際、製品の表面等にキズがつかないようにブラシ、スポンジ等を使用し、金属製たわし、クレンザー（磨き粉）等の使用は避けて下さい。
- 6) 隙間部分や中空穴を有する製品はブラシ等で隙間部分や中空穴部分を入念に洗浄し異物を除去し、洗浄後の製品に異物がないことを十分確認して下さい。
- 7) 可動部を有するものは可動部分を操作しながら洗浄して下さい。
- 8) 分解可能なもの或いは組み合わせて使用するものは最小単位まで分解し洗浄を行って下さい。
- 9) ブラシ等で血塊等を除去できない場合は隙間部分等を血液溶解剤又は蛋白分解酵素剤等を用いて洗浄後、超音波洗浄機を用いて洗浄し、滅菌して下さい。特に隙間部分には異物が残りやすいので、異物がないことを十分確認して下さい。
- 10) 血液溶解剤又は蛋白分解酵素剤等の薬剤を使用する場合は取扱説明書を参照の上使用して下さい。
- 11) 超音波洗浄機を使用する場合は、取扱説明書を参照の上使用し、製品に異物等がなくなるまで洗浄して下さい。
- 12) 超音波洗浄機を使用する際は、ドリル等の刃物が接触し、キズ等が発生しないよう注意して洗浄して下さい。
- 13) 合成樹脂が使用されている製品に高圧蒸気滅菌を行う場合、合成樹脂部分が滅菌トレー又は滅菌用金網容器等の金属部分に直接触れないようにして下さい。
- 14) 洗浄、滅菌後可動部分を有する製品がスムーズに可動しない場合は、必要に応じ水溶性潤滑剤または流動パラフィンを塗布して下さい。水溶性潤滑剤又は流動パラフィンを使用する場合は取扱説明書を参照の上使用して下さい。

15) 洗浄後は、水ですすぎを完全に行い、腐食防止のために、直ちに乾燥させて下さい。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

株式会社 ホムズ技研

〒391-0213 長野県茅野市豊平 4734-352

電話番号 0266-76-5881

製造業者

株式会社 ホムズ技研